

令和5年度事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業として、インドネシア・関東・伊豆諸島ではウミガメ類を対象に、小笠原ではウミガメおよびザトウクジラを対象にした事業を継続した。各事業において研究者や修論生・卒論生といった外部研究者との共同研究を積極的におこなうことにより生態解明や状況把握に進捗が見られ、全体的に事業内容が向上した。具体的にはザトウクジラにおいては個体数や生存率の解析、国内における回遊経路や交流の実態などの解明、インドネシア国内におけるタイマイの遺伝的個体群や遺伝的多様性の解明および東南アジア・オーストラリア地域における管理単位

(Management Unit)の推定解析、小笠原アオウミガメの稚ガメや胚に関する生態研究、沖縄や伊豆諸島・関東での餌場におけるアオウミガメの生態解明、ウミガメを取り巻くマイクロプラスチックの影響や殺鼠剤が与える影響などの解明に取り組んだ。本年度から新たに実施した内容として、日本国内における漂着オサガメの生態調査に取り組み、情報収集や関係構築をおこなった。また、ザトウクジラの個体識別についてAIを導入し、作業の効率化を図るとともに市民科学者への個体情報提供などにも利用を開始した。変化が見られた事業として、インドネシアのオサガメ保全活動事業は、平成12年から継続してきたワルマメディ海岸でのモニタリング調査活動を令和5年度12月をもって終了した。

海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材育成事業も継続した。先述の海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを実施した他、海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供した(小笠原:島内15名、島外64名。横浜:19名)。インドネシアでは現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター(YPLI)」とインドネシアのウミガメ生態と保全についてインドネシア語での取り纏めと発信をおこなった。また、インドネシアで開催されたウミガメシンポジウムでタイマイ保全活動地での成果と手法についての口頭発表もYPLIとおこなうことで、YPLI職員の育成とともに現地監視員や他地域のウミガメ関係者へも知見共有を実施した。

海洋生物及び自然環境に関する情報提供や普及啓発の事業として、「小笠原村屏風谷施設(通称:小笠原海洋センター)」の運営管理や当施設を利用した教育啓発・エコツアー事業の継続、関東における普及啓発イベントの主催や出展、SNSやホームページを利用した広域への配信も積極的におこなった。また、ウミガメジョイントブリーディング(小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム)は計5組織で継続した。

国内外において、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:23,133千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 タイマイ保全を目的としたジャワ海での保全活動は、4島(セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島)で継続した。今年は、タイマイ4,822巣(前年比+161)とアオウミガメ890巣(前年比+99)分の卵を盗掘から保護し、推定約210,000匹のタイマイと16,000匹のアオウミガメを海に帰すことができた(2023年1月-12月)。インドネシアにおけるタイマイの遺伝的系群解析のための共同研究も継続し、論文投稿最終段階に至った。

西パプア州では、ワルマメディ海岸(ジェン・ウォモン地区)とジェン・シュアツプ海岸にてウミガメ産卵数のモニタリング調査を継続した。今年度のワルマメディ海岸のオサガメ産卵巣数(2023年1-12月)は307巣であり、ジェン・シュアツプ海岸では1,455巣(2023年1-12月)であった。ジェン・シュアツプ海岸は近年の平均的な産卵巣数を記録したのに対し、ワルマメディ海岸では過去最低の数値となった。とやや減少した。両海岸を合算して夏場個体群(4-9月)と冬場個体群(10-5月)に分けて傾向を見て見ると、夏場個体群は今年も安定的であった冬場個体群は昨年より微増したものの数は少なかった。なお、ワルマメディ海岸は資金的理由から契約更新に至らず、12月末をもって調査活動は終了した。

他地域の保全活動にも貢献する目的で、インドネシアウミガメシンポジウムにおいてタイマ

イ保全活動の保全手法と成果についてカウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター (YPLI)」と共同発表をおこなった。

- ・ Billion Baby Turtle 助成事業 (一部)
- ・ パブリックリソース財団助成 (一部)
- ・ 大成建設自然・歴史環境基金助成事業 (一部・令和6年度分含む)

【日時】 令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】 ジャワ海周辺 (セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、スリブ諸島)、西パプア州 (ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアアップ地区)

【従事者人員】 4人

【対象】 ジャワ海周辺地域の住民 (50~80名)、海洋漁業省ソロン支局、タンブロウ政府、西パプア州地区住民 (1,000人)

2. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。また、食用捕獲されたウミガメが誤食していた人工物サンプルの採取もおこなった。外部研究者と共同研究を積極的に行い、研究者4名、修論生2名、卒論生1名の受け入れ、小笠原の事業内容が大きく向上した。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業 (一部)
- ・ セブン-イレブン記念財団助成事業 (一部)
- ・ TOTO水環境助成事業 (一部)

【日時】 令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】 小笠原諸島

【従事者人数】 7人

【対象】 島民 (約2,700人)、一般(不特定多数)

3. 伊豆諸島および関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】 関東沿岸 (茨城県、千葉県、神奈川県) のウミガメ漂着 (ストランディング) 調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した (全情報 164頭中 76頭調査)。また、一部個体において健康状態調査のための病理検査も行った。漂着・混獲情報は、既に構築されたネットワーク (行政や関係機関、漁業者、団体や個人など) からだけでなく広く一般からも収集し、関東のほか伊豆諸島・宮城県・島根県・兵庫県・静岡県・和歌山県・三重県・北海道からも寄せられた。本年度から日本全国における漂着オサガメ調査を実施し、情報収集や関係構築にも努めた。オサガメまた関東に漂着・混獲するアカウミガメ (一部アオウミガメ) の年齢査定および遺伝的系群解析事業の共同研究を開始した。伊豆諸島におけるウミガメ調査や関係構築も継続した。

- ・ 水産関係民間団体事業補助事業 (一部)
- ・ 地球環境基金助成 (一部)

【日時】 令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】 茨城県、千葉県、東京都、神奈川県など

【従事者人員】 4人

【対象】 各地団体及び個人 (サーファー、カヤッカー等)、行政関係者、漁業関係者、水族館関係者、大学・研究者など約200人

4. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】 尾びれによるザトウクジラの個体識別調査を他団体と協働で実施した。エコツーリズムの一環として野生生物の研究や保全に関与することで、保全への理解を深めることを目的とし、市民科学の導入も実施し、尾びれ写真を一般から広く募集した。また、個体識別照合作業にAIを導入し作業の効率化を図るとともに、市民科学者への個体情報提供などにも利用した。また、過去のデータを用いて小笠原に来遊するザトウクジラの個体数や生存率を解明するため、引き続き解析に取り組んだ。また、沖縄、奄美、北海道、伊豆諸島などザトウクジラが来遊する国内地域の大学・研究機関と回遊経路や交流の実態など生態解明に取り組み、その一部を公表した。国外の研究機関へのデータ提供や共同研究を実施し、学会で発表した。

- ・ 公益財団法人 JAC 環境動物保護財団助成 (一部)

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】4人

【対象】島民（約2,700人）

2 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:11,549千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】インドネシア現地カウンターパート YPLI のスタッフや、YPLI スタッフを通して各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。インドネシアウミガメシンポジウムに参加・発表してもらうことでも育成を図った。また、助成事業の申請・報告や共同研究者対応などの指導も行った。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアップ地区）

【従事者人員】3人

【対象】ジャワ海西部の地域住民（30～50名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20人）

2. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。小笠原父島内では延べ15名の父島在住ボランティアが活動に参加。島外からは延べ64名の受け入れを行った。内、39名が大学生、25名が社会人であった。ボランティアの平均滞在日数は28日。最大121日。最小10日。年度内で2回来島するリピーターが10名いた。今年度受け入れ学生ボランティアのうち2名は共同研究を海洋センターと行うこととなった。横浜事業所ではウミガメ漂着調査補助や卒論研究生の受け入れをおこなった他、プロボノ支援の元で新規事業開発をおこなった。19名の方に、延べ92日243.5時間参加いただいた。内、2名の研究生を共同研究として受け入れ、海洋生物をテーマに研究を行う学生団体に対してのサポートもおこなった。

・よこはま夢ファンド基盤助成事業（一部）

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】9人

【対象】一般

3 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:8,224千円】

1. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行った。

・小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）

・小笠原海洋センター運營業務受託事業（一部）

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】9人

【対象】島民及び来島者

2. 教育啓発・エコツアーリズム事業

【内容】小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化を両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】6人

【対象】一般

3. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】前年より参加継続のさとえ学園小学校、学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）、高齢者介護施設であるオーチャード沼津およびオーチャード開智（ランブラス・キャピタル株式会社）、すみだ水族館、マリホ水族館の計5組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。一部の参加組織に対して、子ガメ短期育成に関連したウミガメ講演や飼育死亡ウミガメの解剖講義を対面で行った。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】埼玉県、東京都、静岡県、広島県、長野県

【従事者人員】8人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

4. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebook や twitter、Instagram、メールマガジンと連携して広報を行った。夏季に Instagaram live を実施。また、海洋センターのホームページデザインを変更。スマートフォンでも見やすいデザインに変更した。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】9人

【対象】一般

5. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物および海洋ゴミについての普及啓発を行った。開催方式は対面での実施が主流であり、他の団体や研究者と協働で行った講演会もあった。また、各種の講演会や学会に出席、および発表を行った。社会人プロボノの支援の元、企業研修プログラムの開発も行った。

【日時】令和5年4月（海の・・・展）、5月（すみだ水族館講演）、7月（さとえ学園講演）、7月（親子で自由研究イベント）、10月（マリホ水族館講演）、11月（サイエンスカフェイベント）、12月（日本ウミガメ会議、アクションミーティング）、令和6年1月（沖永良部島海洋ゴミイベント）、2月（うじじきれい団イベント）、3月（ウミガメ報告会、ウミガメ国際シンポジウム）。

- ・ TOTO 水環境基金助成事業（一部）
- ・ よこはま夢ファンド基盤助成事業（一部）

【場所】神奈川県、オンライン

【従事者人員】9人

【対象】一般

(2) その他の事業

1 物品販売【支出額： 2,239 千円】

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNA ショップ（エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担う ELNA カレンダーを今年も販売し好評を得た。今年もアーティストにオリジナルグッズ作りの協力を得て、多彩なグッズ開発・販売をすることができた。販売サイト Suzuri への登録や海外向け受注生産もおこない、新たな商品開発および販路構築にも努めた。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）、神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）

【従事者人員】9人

【対象】会員及び一般消費者

2. 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業

【内容】小笠原諸島父島において、その数の増加が懸念されており、ウミガメの卵やふ化幼体を捕食する等、ウミガメにも脅威となっている野ネズミを捕獲しその数を調査することで、小笠原海洋

センター内の野ネズミの個体数の現状を把握する。同時に、殺鼠剤がアオウミガメにおいて感受性が高いことが示唆されているため、殺鼠剤以外の方法で野ネズミを駆逐する方法を模索する。主にネズミかごを使用し、センター内でのネズミ被害は防止できた。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】5人

【対象】一般

3. 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業

【内容】ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設において外部研修者と協働で試験および検証を行う。

【日時】令和5年4月1日から令和6年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、静岡県

【従事者人員】2人

【対象】一般